



# Tanabe East Rotary Club in 2015-16

2015-16年度RI会長: K.R. ラビンドラン  
 第2640地区ガバナー: 辻 秀和  
 創立: 昭和49年5月15日  
 会長: 坂本 正人  
 幹事: 畔田 実  
 会報: 本田 耕二 委員長

例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10  
 きのくに信用金庫田辺支店3F  
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008  
 http://tanabe-east-rc.com/  
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp  
 例会: 毎週水曜日 12:30~  
 ビジターフィー ¥2,000



## ○本日のプログラム

IM 1組 7クラブ合同公開例会  
 日時: 4月2日(土) 午後6時~  
 会場: 紀南文化会館 小ホール

## ○本日の唱歌

「君が代」「奉仕の理想」  
 唱歌委員: 榎本 長治様  
 田辺ロータリークラブ所属



## ○本日のお客様

■日本国際ボランティアセンター (JVC)  
 パレスチナ事業現地調整員ガザ事業担当  
 ロタリー世界平和フェロー8期生

金子 由佳 氏



【出身】 埼玉県熊谷市生まれ

【プロフィール】 大学で国際関係学を専攻し、卒業後6年半NGOや政府ODA実施機関で勤務。2011年、オーストラリアクイーンズランド大学、国際政治学部、紛争予防及び平和学専攻で修士号を取得。その後国連大学、外務省勤務の後、2012年6月より現職。大学院卒業直後、パレスチナ現地NGOの活動にボランティアとして参加。一ヶ月の現地生活を通じて、パレスチナ人が直面する苦難を目の当たりにする。イスラエルによる占領状況を黙認する国際社会と、一方で援助を続ける国際社会の矛盾に疑問をもち、国境を越えた市民同士の連帯と、アドボカシー活動の重要性を感じている。プロジェクトを通じて苦難に直面する人々と連帯し、その経験を日本の人々とも共有したい。

## ○出席報告

会員数46名 義務免除 5名 本日の欠席者 17名  
 本日出席率 58.54% 3月16日の修正出席率 90.7%

## ○にこにこ報告

(敬称略)

◇移動例会出席者全員に頂きました。

有難う御座いました。



四つのテスト: 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



## IM1組 合同例会

平成28年4月2日

ロータリークラブの重点項目の一つに「平和と紛争予防、紛争解決」があります。具体的には次の8つのテーマが設定されています。

- 社会から疎外され、暴力や迫害の危険にさらされた人びとを支援する。
- 紛争の原因について学ぶ平和フォーラムを開催し市民同士で話し合う機会を提供する。
- 紛争で親をなくしたり負傷したり心に傷を負った子どもたちを助ける。
- 紛争地帯から逃れてきた人びとを救済する。
- 現地の学校、孤児院、職場、市民センターなどと協力して紛争解決や仲裁に取り組む。
- ロータリー平和フェローシップの候補者を探す（毎年最高100名に提供）。
- 理解と平和を推進するため海外のロータリークラブと友好を築き奉仕活動で協力する。
- 紛争の要因（貧困、不平等、民族間の緊張、教育の欠如など）の解消に取り組むプロジェクトを計画する。

今般、IM1組7クラブでは、上記のテーマに鑑み、金子由佳氏をお招きして、国際的に最も深刻な紛争地帯のひとつであるイスラエル・ガザ地区の現状についてお話をして頂きます。氏のお話から「平和と紛争予防、紛争解決」の手がかりを得たいと思います。



### 「パレスチナ・ガザ地区の現状について」

講師 金子 由佳 氏  
所属 日本国際ボランティアセンター (JVC)  
パレスチナ事業現地調整員ガザ事業担当  
ロータリー世界平和フェロー8期生



この度は、ガザの人々のために盛大な講演会を企画・実施してくださり、本当にありがとうございました。改めて心より御礼申し上げます。当方は、2011年にロータリー世界平和フェロー8期生として、オーストラリア州立クイーンズランド大学で国際政治学・修士号を収め、その後国連大学、外務省での勤務を経て、2012年8月より日本国際ボランティアセンター（以下JVC）パレスチナ現地調整員の職についております。当方が勤めているJVCでは、パレスチナ事業を1993年～実施していますが、パレスチナのガザ地区では「子どもの栄養失調予防」を目的に、パレスチナ人スタッフ6名、パレスチナ人ボランティア30名と共に実施しています。当方は事業の調整役として、過去3年半の間50回以上ガザを訪れ、日々人々と共に働いています。

パレスチナ・ガザ地区は東京23区の6割程度の大きさで、地中海に面し、古くは旧約聖書にも登場する商業都市ですが、2006年以降はイスラエルからの軍事封鎖が始まり、人々が域外に出る事が難しい状況です。180万人もの人々がこの小さな土地に暮らし、2008年、2009年、2012年、2014年と度重なるイスラエルからの軍事侵攻により、インフラや経済の破壊が進み、現在は失業率が5割近くに達する非常に厳しい地域となっています。5歳以下の貧血児の割合は全体の3割を超え、8割以上の人々が国連などの支援失くして生きられない状況におかれています。



JVCではこうしたガザの厳しい現状を踏まえ、戦争時には食料支援や医療サービスを中心にした緊急支援を行い、また平時は子どもの栄養状態を改善するための事業を2003年以降実施しております。特に、2014年5月から2015年7月にかけては、ロータリーグローバル補助金のご支援を受けながら、約1,200人の子どもと、5千人以上の母親に栄養講習会やカウンセリングを実施し、結果対象となった子どもたちの、7割以上に栄養状態の改善を認められるまでになりました。また、現在も次期グローバル補助金の獲得に向け、ロータリーの皆様との活動を計画しております。イスラエル・パレスチナ紛争は今年70年目を迎え、ガザの状況、またパレスチナ全体の状況は非常に厳しいものがあります。しかし、シリアやイラク周辺でISが台頭し、またシリアからの難民が欧州に溢れるなか、中東問題の核であった当地域を支援し、平和への道をあきらめずに模索すること、また地球市民として生きる道を追求し、平和構築のために働くことは、今後の中東情勢を安定に導く鍵にもなり、非常に意義深い事だと考えております。引き続き、ロータリーの皆さんと共に世界平和のために働いて参りたいと思います。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

